

令和6年度第2回小美玉市まち・ひと・しごと創生有識者会議会議録

日時	令和6年8月19日（月）午後1時30分
場所	小美玉市役所本庁2階 政策会議室
出席者	<p>【有識者】 馬渡座長、綿引委員、清水委員、笹原委員、小林委員、本田委員、立原委員、遠藤委員、深谷委員</p> <p>【事務局】 （市長公室）滑川市長公室長 （政策企画課）植田課長、海保課長補佐、大槻主幹、皆藤主事 （行革デジタル推進課）高田課長補佐</p> <p>【コンサルタント】 （株）都市環境計画研究所 大竹、澤田、藤本</p>
配布資料	<p>資料1：小美玉市人口ビジョン・総合戦略に係るアンケート調査 単純集計結果【速報版】</p> <p>資料2：小美玉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン 人口ビジョンの検証（案）</p> <p>資料3：小美玉市まち・ひと・しごと創生総合戦略 総合戦略の効果検証と骨子（案）</p>

令和6年度第2回小美玉市まち・ひと・しごと創生有識者会議会議録

発 言 者	内 容
事務局	<p>1 開会 2 挨拶 3 協議事項 (1) 小美玉市人口ビジョン・総合戦略に係るアンケート調査結果報告について</p> <p style="text-align: center;">＜資料1を説明＞</p>
座長	<p>『市民』としては、児童生徒の保護者と、児童生徒の保護者を除いた18歳から39歳の市民の調査結果、そして『高校生等』としては、中央高校に通う生徒と、それ以外の市内在住の高校生の調査結果となります。こちらに関してご意見あるいは質問等ありましたらよろしく願います。</p>
委員	<p>数年前にもアンケートを実施していると思いますが、そのときと比べて注目すべき違いはありましたか。同じような設問であれば、どのくらい改善しているのか、あるいは悪くなっているのかなど、わかりますか。</p>
事務局	<p>資料3（※2ページ）、に示しております。「①数値目標から見た達成状況」の中の「1 恋も子育てもしたくなるまちになる」に、基準値の欄に前回調査時点の数値があります。</p> <p>まず、「結婚を希望しない若者の割合」は、市民では12.9%、高校生世代では4.9%という結果でした。こちらに対し、今回同じ設問で行った結果によりますと市民では20.7%、高校生世代では10.8%という形で、結婚を希望しない若者の割合は少し増加しているような結果となっております。</p> <p>続いて「小美玉市で子育てをしていきたい割合」ですが、こちら前回調査時は61.9%であったのに対し、18歳から39歳の市民では28.4%、小中学校の保護者では58.2%という結果になりました。</p> <p>また、「3 わくworkがとまらないまちになる」の中の、「市内に住んで市内外で就職したい割合」については、こちら前回調査では46.7%という結果でしたが、今回は37.3%と若干の低下が見られます。</p> <p>続きまして、「4 スーっと、ず〜っとすめるまちになる」の中の、「小美玉市に愛着を持っている市民の割合」については、前回調査時においては56%であったのに対し、今回調査では18歳から39歳の市民で42.6%、小中学校の保護者で40.6%と、こちら減少する結果となりました。</p>

	<p>最後に、今後も今のお住まいに継続して住む予定かという設問に対して、前回調査では53.4%という回答に対し、今回は18歳から39歳の市民で56.7%、小中学生の保護者で76.3%と、こちらは割合が向上する結果となりました。</p>
委員	<p>前回アンケートとの比較結果が出たということですか。一つだけ改善されたものが、「今後も今のお住まいに継続して住む割合」となっていますが、これは『市民』の児童生徒の保護者のアンケート回収率が上がったことが理由なのでしょうか。</p>
事務局	<p>前回より数字がよい要因としては、今回は『市民』を児童生徒の保護者とそれ以外の18歳から39歳の市民に切り分けたことにあります。18歳から39歳の市民では、前回調査は53.4%に対して、今回56.7%と、向上する結果が出ております。</p>
座長	<p>数値は大きくは変わらないと思いますが、『高校生等』の勤務地の希望、小美玉市内で働きたいか市外で働きたいかについてです。中央高校生の場合は、もっぱら小美玉市内と笠間市と石岡市と、それに次いで水戸市というような人数の割合になっていたはずですが、これをクロス集計して、何らかの傾向は見られましたか。要するに、小美玉市に住んでいる子は、市内で働きたいのか働きたくないのかだとか、あるいは笠間市に住んでいる子はどう考えているのかだとか、そういったことがわかるようなクロス集計をした結果はありますか。</p>
事務局	<p>今現在では単純集計の結果のみとなっています。今後、クロス集計を行って傾向等を確認して参りたいと考えております。</p>
座長	<p>クロス集計はまだとのことで、回答結果の組み合わせでの傾向はまだ見えていないということですが、他に何か疑問点はございますか。</p>
委員	<p>今回の結果を集計していて、予想外だった結果はありましたか。このアンケートの内容を見ていて、予想できる結果となっているものがほとんどでした。その中で何か、ここは突出しているだとか、ここが意外だったというようなポイントはありましたか。</p>
座長	<p>通常であれば、クロス集計をしておく、ある程度の傾向や予測、いろいろなことが見えてくるのですが、まだ単純集計のみですので、これだけではなかなか判断がつかないところがあります。</p> <p>評価すべき点としては、回収数が上がったということです。前回調査では、特に若者世代、高校生、要するにティーンエイジャーの回答数が非常に少なく、それをもとに「若者はこういう意見持っています」とするには、危険なところがありました。今回、それは避けられそうであることは大きな進歩だと思います。</p>
事務局	<p>先ほども資料3の中で触れましたが、「1 恋も子育てもしたくな</p>

座長	<p>るまちになる」の中の「結婚を希望しない若者の割合」について、令和元年の調査では市民は12.9%、高校生は4.9%でしたが、5年の間にこれが倍になっています。こちらに関しては、今後政策を打つために重要な部分になると思っています。</p> <p>それから、「4 スーっと、ず〜っとすめるまちになる」の中の、「小美玉市に愛着を持っている市民の割合」が低下している点についても、その理由が気になっているところです。</p> <p>私もその理由を考えていました。例えば、5年前は新型コロナウイルス感染症に危機感を覚えた時期でしょうか。その状況下と、現在は感染症が収まったとは言いませんが5類に移行した後ということで、この差は要因の一つとして考えられるのではないのでしょうか。</p> <p>例えば、市内で就職したい割合について5年前が46.7%で、それが今回は37.3%に低下していますが、もしかしたらコロナ禍の影響があるのかもしれない。この影響が同様にあるのかはわかりませんが、愛着に関しても10%強低下しています。</p> <p>分析の視点として、そういったものがあるというご意見をいただいたところです。ぱっと思いつくのはコロナ禍だけですが、5年前と何が変わったのかというところを、今後ぜひ検討していただければと思います。</p> <p>こういった市民目線の声や傾向については、国全体としては社人研等によって数値が公表されていますが、このアンケート結果は小美玉市民の現在の、特に働く世代やこれから小美玉市を担っていく高校生のご意見なので、今後の総合計画にも寄与しうるところだと思います。</p> <p>その上で、次の議題に移ります。全国的な傾向といいますか、これからの人口はどうなるかということについてです。日本の人口がどんどん減っていくということはマスコミも報じており、小美玉市も例外ではないことはすでに皆さんもご存じだと思います。今後の小美玉市の人口ビジョンの見通しについての説明をよろしく願います。</p>
事務局	<p>3 協議事項</p> <p>(2) 人口ビジョンの検証について</p> <p>＜資料2を説明＞</p>
座長	<p>なかなか明るい未来は描けない、といったところですが、質問、ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>28ページ「④社会移動数の考え方」の中の「新たな企業誘致により見込まれる効果」について、これはテクノパークと同じ規模の企</p>

事務局	<p>業誘致を新たに計画するというのでしょうか。</p> <p>こちらは、現在のテクノパークの状況や、東関道が整備された場合に需要が見込まれることから、期待值的に設定したものです。現時点で市にこういった具体的な計画があるということではないのですが、今後、実際に企業進出の要望があったときに、将来的に人口を維持するために施策を展開する必要があるのではないかとという視点で設定したものです。</p>
座長 委員	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>ただいまの委員のご意見についてです。小美玉市の恵まれている点として、インフラがかなり発展してきているということがあります。特に、東関道が2年後に開通するという、常磐道からのアクセス道路が茨城空港に繋がっているということで、まさに今、追い風が吹いています。その中で、条件がそろえばという考え方でいるのではなく、むしろ施策を促していくことが必要だと思います。例えば、テクノパークのような機能は人口をかなり引き上げます。そこが全部埋まった後に、さらに同程度の工業団地が必要になるのではないのでしょうか。</p> <p>県が工業団地をもう一つ造ってくれることが一番よいでしょうが、場合によっては市が用意するという施策も視野に入れて、期待値としてこの数値を挙げている、と私は理解しています。</p>
座長	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>現状分析、そして何をすべきなのかということとはよくわかりました。具体的にどうするのかということが、総合戦略あるいは総合計画でしっかりと書かれなければなりません。</p> <p>もう一つは内部的な問題で、本当に実行しなくてはならないということです。残念なことに、前回の作成した総合戦略の中には実行できていないところが見られます。</p> <p>2040年には今の自治体の職員の半数で仕事をしなければならないことが予想されています。かつ、若者がどんどん流出する中で、若者に選ばれる自治体にならなければならないということがわかっていて、では自治体では何をしてきたのかということは、市民からは当然問われます。計画を作りました、総合戦略の中に盛り込んでいます、といっても、実行したのかと問われれば結局は実行していないということが、他の自治体で見られます。しっかりとやることをやらなくてはならない。</p> <p>もちろん、できないこともあると思います。例えば、合計特殊出生率1.8という目標を立てた前回策定時の会議の際も指摘がありましたが、そもそも本当に実現できるのかということは、この自治体だけではなく、いろいろな自治体の総合計画・総合戦略の会議で</p>

<p>事務局</p> <p>座長 委員</p>	<p>も指摘されています。それに対する回答の一つとしては、「これは目標値なのだから、それくらい高くしなくてはならない」というものでした。「県でこのように設定しているから、我々もそうしている」ということでしたが、これからはやはり、より現実的に考えなければいけません。計画もただ書けばいいということではなく、しっかりと取り組まなければ、大変なことになるということがよくわかりになられたかと思います。</p> <p>何かご意見ご質問等ございますか。</p> <p>これを踏まえた上での、総合戦略の骨子やこれまでの分析の報告ということで、次の議題に移らせていただきます。</p> <p>3 協議事項</p> <p>(3) 総合戦略の効果検証と骨子案について</p> <p>＜資料3を説明＞</p> <p>皆様のご意見、ご質問等ございますか。</p> <p>この資料のグラフは令和2年度からになっていますが、これだとコロナ禍になってからの側面が大きいと思うので、可能であればその前年や前々年のデータが入っていると、コロナ禍前からの比較ができてよいと思いました。</p> <p>というのも、特に外から人が来る観光やイベント関係のことを検討する際に、比較になるものが欲しいと思ったところです。</p> <p>また、資料6ページの「政策分野2 地域の宝を見つけ、磨き、光をあてるまちになる」の中で、達成状況の表中、「市イベント関連交流人口」についてです。ふるさとふれあい祭り・産業祭等とありますが、これは過去のイベントですので、今後の資料では、新しい名称にするのか、書き方を変えるのか、何かしらの対応が必要なのではないかと思います。</p> <p>また、先ほど玉里学園に地元企業の方が来てお話をされたとありましたが、私も去年から美野里中学校のキャリアFesという、夏休みに講師の方が来て、仕事観をお話するというキャリア授業に参加しています。そこには市外から来ている会社や個人の方も多く参加されているので、そういったところで「小美玉でこんな仕事ができる」という話をもっとできると、小美玉での仕事の仕方がイメージしやすくなると思いました。また、美野里中学校だけではなく、他の中学校でもそういったことができると、より、小美玉で仕事をする、住むということをイメージできるのではないかと思います。</p> <p>また、観光についてです。私も動画制作で観光について関わっているところです。イベント的に観光になるもの、例えば熱気球等が</p>
-----------------------------	--

委員	<p>そうですが、そういったものには人がとても集まるので、観光資源としてとてもよいとは思いますが、しかし、日常的にやっているものではありません。例えば、「あそこに行けば、何かできる」というような、常に人を呼び込める何かは今後できるとよいと思います。</p> <p>先ほどの資料のデジ田構想のところで「横串で」という話がありましたが、具体的にどう関連させていくのか、この施策を見てもよくわかりませんでした。データの利活用やその辺りの話が出てくるのかと思いましたが、そういう話もありませんでしたので、施策として何かしら講じないのかと疑問に思いました。というのは、デジ田構想に対して、デジタル化やDXというところの中身を見ても、デジタル人材の育成くらいしか見られず、おそらくこれもまた違う話なのではないかと感じました。先ほど、2040年までに職員数が半減するという話もありましたが、やはり今のままをただ続けていっても、もう続かないということは目に見えていると思います。その上で、デジタル化ということをもっと考えていただきたいと思いました。</p> <p>また、茨城空港のテクノパークへの企業誘致を契機にどんどん移住者を増やしていったときの、そこに対する施策がわかりませんでした。今は羽鳥地区に人口が集中しているという話だけでしたが、テクノパークの企業誘致が進んだときに、次は小川地区辺りにも人口が一部集中するのか、あるいは羽鳥地区から移動を促すのかなど、テクノパークに対する移住させるための施策がないように感じました。</p>
座長	<p>横串でデジタルと言うのであれば、その横串がわかるような構成にしなければいけません。今は小学校でもプログラミングが必修化されています。小中学校、高校でデジタル人材を育てるのであれば、誘致する企業もどのような企業でもよいというわけではなくて、デジタル人材を生かしたITやAIに関連する企業を重点的に誘致するという事も考えられます。そうすれば、小美玉市に進出すると、デジタルに強い人材がすでに若いうちから育成支援されていて、中長期的に人材が確保できるということになります。どこの企業も人材不足で、IT技術者も取り合いになっているというところもあります。デジタルということで横串を刺すのであれば、教育や企業誘致を中長期的に考えた横串にしなければなりません、そういう統一感が見えないように思います。</p> <p>そういったところにデジ田を加えれば、親和性が取れます。小中学校、高校で勉強すれば小美玉市で就職ができる、ずっと働くことができる、そして自分が小美玉市に必要とされているということを感じられるようになります。デジタルシティ小美玉のような構想を</p>

事務局	<p>掲げるくらいでなければ、「とりあえずアイデアを集めて、それを一緒にくたにして、デジタルのにおいがするから横串でデジ田とするか」としているように受け取られかねません。明確な横串がしっかりと見えるような構成にした方がよいのではないかと感じました。</p> <p>次回の会議では、行政のデジタル、まちのデジタル、そしてデジタルを推進していく上での課題であるデジタル格差、そういった施策を示せればと思っております。</p>
座長	<p>女性の活躍推進と記載がありますが、子育てと仕事の両立を打ち出すのであれば、そこにはデジタルが関わってくると思います。デジタルと言ってもAIの導入等そこまでのレベルでなくとも、いろいろな手法があると思うので、そこもぜひ考えながら、綿密に設計された形にしていただくと、デジタルを目指すことへの理解が得られると思います。</p> <p>協力できることは協力しますし、アイデアも出しますので仰っていただければと思います。</p> <p>実際に、例えば普段は酪農や農業をやっていて朝は忙しいけれども、日中は空き時間があるという方だとか、潜在的な労働力は小美玉市にはあるはずですので、そういった方も活躍できる形がよいと思います。</p> <p>ですから、セミナーや就職説明会を本市で開催したということだけではなく、そこにデジタルというものが政策としてどう対応できたのか、どうデータ整備を行ったのかということも必要だと思います。</p> <p>セミナーに関する具体的な話としては、ある自治体では来年度、土曜日・日曜日の高校の空き教室で、AI、プログラミング、デジタル人材の育成やeスポーツ等に関するセミナーを、市民向け、企業向け、中高生向けに開催する予定だそうです。共存共栄することが一番よいのですが、近隣の自治体で開催するとなると、人材の取り合いも起こり得ます。こういったことも少し考えるべき時期にあるのではないかと思います。</p>
委員	<p>少子高齢化の中で、人口減少、高齢化が進む中で、財政も非常に厳しいという状況が続いて参ります。本来、公としてすべき行政サービス等もこれからは減少します。市だけで対応するのではなく、NPO法人や個人、民間に委ねること、官民連携という視点が抜けているのではないかと思います。例えば、出会いや子育て、防犯、健康づくり、そういったところを民間に委ねるといった視点も入れて検討してよいと思います。</p> <p>それから、国の資料でも「デジタルの力を活用した」とありますが、では具体的に何をやるのかということが、イメージつかず非常</p>

<p>座長</p>	<p>に困っているところです。具体的な施策となるよう、委員の皆さんにアイデアを出していただきながら、施策に織り込んでいく必要があると思います。</p> <p>それから、前回も言及した地方創生について、これはいかに地域経済を活性化させるか、人口減少をどれだけ抑制させるかということだと思いますが、切り札はやはり地方に産業を起こすこと、企業誘致に尽きると思います。地方の特色を生かした産業の誘致、例えばシリコンバレーにおいての半導体などがあります。小美玉市の特色を生かした企業誘致を積極的に進めていく必要があると思います。先ほど冒頭に話しましたテクノパークについては、全ての分譲が完了した場合、新たな工業団地を県に依頼するやり方もありますが、市が独自に造るというやり方もあります。その辺りを施策の中で積極的に盛り込んでいく。例えば工業団地の立地可能性調査や適地調査など、そういったものを検討するというのも必要なのではないかと思います。</p> <p>それから、地域経済の活性化についてです。やはり地域の商工業、商業者、利用者は減少していきます。そこをいかに活性化させていくかということ、後継者不足などの対策もしっかりと取り組んでいくことも大事だと思います。以上です。</p> <p>大いに期待しているが故の、委員の皆さんからの危機感を持っての発言ですので、取り入れていけるものはぜひ積極的に行っていただきたいということもあわせてお伝えいたします。</p> <p>他にございますか。よろしいでしょうか。もし何か追加でお話がありましたら、事務局にお寄せいただければ幸いです。</p> <p>それでは、議題は以上ですので、以降は事務局に司会をお返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 閉会</p> <p>委員の皆様には長時間にわたりご協議をいただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>それでは以上をもちまして令和6年度第2回小美玉市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会いたします。</p> <p>長時間にわたり、ありがとうございました。</p>